

# 読書のすゝめ

その23

H 30 10 / 15

## 読書感想画指定図書紹介

「読書感想画コンクール」は、今年で30回目を迎えます。読後の感動を絵に表して人に伝え、感動を分かち合うことによってより深く読み味わうことができます。県内締切は来年1月9日(水)です。また、指定図書以外の自由図書での参加もできます。この秋十分に読み込み、ふるって応募してください。応募要項など問い合わせ受付は美術科・島田先生です。

※指定図書はすべて図書館に揃っています!



『100年の木の下で』杉本りえ  
みんな懸命に生きてきた——立山連峰と大きな栗の木に見守られて続いていく、家族の百年の物語。

【みどころ】  
友人関係に悩んでいた千尋は、自由奔放に見えて苦手だった祖母と過ごした数日間で、先祖たちの息づかいを感じ、彼女自身が変わっていく。10代の少女を主人公にしたファミリーヒストリー。



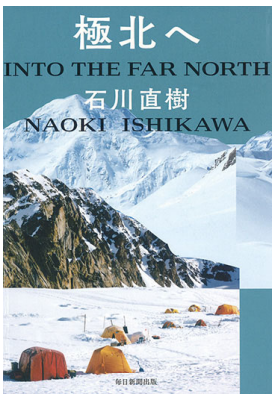
『ヒトラーと暮らした少年』ジョン・ボイン  
少年は、ただ信じただけだった。目の前に立つその人を。そして、ただ認められることだけを夢見て、変わりはじめた……。7歳の少年が憧れたのは、ヒトラー総統その人だった! 数奇な運命の物語。

【みどころ】  
この本では、無垢だった7歳の少年が加害者へと変わっていく恐ろしさを描いています。少年を変えてしまった力は、現代の世界にも、そして私たちの暮らす日本社会にも潜んでいるのです。



『キツネのパックス・愛をさがして』サラ・ペニーバッカー  
ピーターは死にかけていた子ギツネを助け、パックスと名づけた。深いきずなで結ばれるが、戦争のため、別れ別れになってしまう。少年とキツネは、もう一度めぐりあえるのか?!

【みどころ】  
ニューヨークタイムズのベストセラーに48週連続ランクインした話題作。少年とキツネの深いきずなに全米が涙した。人間の視点、キツネの視点で交互に描かれ、ジョン・クラッセンの挿し絵も魅力的。映画化も決定!



『極北へ』石川直樹  
終わりのない長い旅はこのときからはじまったのだ。世界を駆け抜ける写真家・石川直樹にとって、20歳のときに登頂したアラスカの象徴・北米大陸最高峰のデナリ山は、すべての旅の原点だった。

【みどころ】  
極寒の地に生きる人々の暮らし、厳しくも美しい自然への畏怖。人間の野生を呼び覚ます圧倒的な世界との出会いを瑞々しい文章で綴る。石川直樹の果敢な冒険家人生を支える「原点の力」に触れる一冊。



『正義の声は消えない…反ナチス・白バラ抵抗運動の学生たち』ラッセル・フリードマン  
幼いころはヒトラーに心奪われたが、やがて政策に疑問をいだき、地下でナチスに反対するビラを配布しはじめたシヨル兄妹と仲間。若くして命を落とした白バラ抵抗運動の学生たちを追った実話。

【みどころ】  
白バラ抵抗運動の若者たちは、純粋に自らの良心に従って行動した。それゆえ、彼らを処刑したナチスでさえ、その声を消すことはできなかった。はたして今のわたしたちに彼らと同じことができるだろうか。(訳者渋谷弘子)

第30回 読んだ感想を絵に描こう  
**読書感想画**  
**中央コンクール**

主催：(公社)全国学校図書館協議会/毎日新聞社/実施都道府県学校図書館協議会  
後援：文部科学省/実施都道府県教育委員会/横浜市・名古屋市・大阪市各教育委員会/全国造形教育連盟  
協賛：凸版印刷株式会社  
特別協力：大和証券グループ